

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601148		
法人名	医療法人 永田会		
事業所名	グループホームげんきの家 あんず		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町辛川1923-1		
自己評価作成日	令和元年9月24日	評価結果市町村受理日	令和元年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和元年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた家で暮らしているような安心感と、家族的な対応を心がけています。利用者様同士で楽しく過ごす時間もあれば、一人でゆっくりとくつろぐ時間や趣味の時間も大事にし、いつまでも継続出来るよう個々に支援しています。ホームの周りには、花や農園もあり野菜作りや収穫・梅ちぎりなども行っています。同法人が医療機関でもあり、定期受診や緊急時などの対応を行い、密接な連携を図り利用者の健康に務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体となる医療法人の裏手にあるホームは、管理者の変更や、料理体制の変更という変革期にもあり、料理を作らなくなったことで全員が動ける態勢として両ユニットが協力し合いながら、和やかな日常を支援している。また、会話の弾む入居者同士や、書写やパズル等残存能力を引き出したケアへの取り組みは“したい”思いの実現とともに、職員の声掛けや気づきにより出来ることを見出したケース等、入居者個々への寄り添いのケアや観察力が生かされた日常でもある。職員の意見の出し易さ等働きやすい職場環境づくりへの取り組みは、掲げた目標とともにサービスの質の確保に向けた大きな要因と言える。気象状況により、外に向けた活動が減少する中、庭先の草花や果樹、農作物等をホームで愛でる等ホーム周囲の環境を最大限に生かしており、入居者との距離の近さ、家庭的な環境にやりがいを見出す職員の声にモチベーションの高さが表れたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に提示しいつでも再確認できるようにしている。事例検討を行いスタッフ間の意識の統一を図っている。	理念は掲示における意識強化とともに、入居者個々がらしく安心・安全な生活を過ごせるような支援と、専門職としての知識の向上や、認知症の知識を深めることを目標として掲げている。管理者は、ホームが家庭であることや入居者を親姉妹の気持ちを持ってケアに努めるよう指導している。	入居者個々の問題について、理念に照らし合わせて検討されている。管理者の変更等変革期にあり、パンフレットの見直しが検討されている。今後も新たなパンフレットを活用した地域への啓発に大いに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の影響で参加出来ない時もあったが、地域の総会や掃除活動に参加するよう行っている。	自治会総会への参加により地域の行事をリサーチしているが、夏の暑さ等気象変動の中で外に向かった活動は難しい中、隣接の有料ホームとの合同敬老会や、受診時等に顔見知りと出会う機会がある。こども会のもぐら打ちの訪問やボランティアの訪問等継続した交流に取り組んでいる。	病院の裏手のホームであり、母体病院や有料ホームとの交流が継続されている。通所に通われる家族との会ってもらい意向もあり、今後も出来る限り入居者が地域に出て交流できる機会を支援いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みの相談や問い合わせに、支援方法や対応を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告を行い、活動内容は写真を添付し伝わりやすくしている。それぞれの立場から意見交換を行っている。	運営推進会議は、行政や社協、民生委員、ホーム推薦推進委員、家族会や母体から院長や事務長等充実したメンバーとして定期的に開催している。ホームを更に理解してほしいと、通常18時からの開催を変更し、14時からとする等工夫している。また、近況や活動、ヒヤリハット事例報告等をもとにした意見交換を行っている。	運営推進会議が充実していることが議事録にも表れている。充実したメンバー構成ではあるが、家族代表以外にも参加を呼びかけていただきたい。運営推進会議の開催が、ホーム運営の発信源として生かされており、今後もホーム運営にこの会議が生かされるであろうと大いに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、ホームの現状を伝えている。質疑応答や雑談の時間を作り協力関係を築けるよう配慮している。	運営推進会議には毎回参加され、雑談の中からもヒントを見出しケアに反映させ、報告書提出に出向き情報を発信している。菊陽町の現状についての講話等も行われる等役場及び社協(紹介等)と協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についてマニュアル作成し実践している。常に事例検討を行い拘束に繋がらないように行っている。	身体拘束廃止委員会の中で新たなマニュアルの作成や、外部研修(権利擁護)への参加、及び復講により情報を共有している。毎月の委員会の中でのベッド柵(転倒予防で使用する4点柵)の検討や、事故・ヒヤリハット事をもとに各ユニットで話し合っている。新規入職者には認知症ケアや権利擁護、言葉使い等教育し、職員の声掛け等気づいた時点で注意喚起している。	入居者の外出傾向を把握し、出たいと思いいは個別に対応されている。今後も、入居者の外出傾向等を早めに気づく等察知能力を生かしたケアや、所在確認を徹底されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日頃のケアの中で虐待に繋がっていないかを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や施設内での勉強会を行い理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書のみならず利用者や家族へ解りやすい説明を心掛けをし、疑問点には随時返答出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の関わりの中で、利用者や家族からの要望や意見を密にしている。運営推進会議でのいけん交換の場を設けている。	家族の訪問時に日常の様子を説明しながら意見や要望を聞き取りしており、レベル低下への不安や今後の重度化に対する支援などの相談に丁寧に対応している。また、運営推進会議も問題提起の場として捉えている。入居者には日々の関わりの中で要望等聞き取りし、残存能力を生かした日常生活(新聞の書写等)に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々のケアの中で意見や提案を聞き業務上の問題点の改善に努めている。	管理者はケアに入りながら、職員と1対となる時間をとらえ、コミュニケーションに努める等職員がケアしやすい方策を検討しており、意見が出しやすい環境である。また、その時に改善すべき事案(入居に関する事案、業務改善等)はその都度話し合う等業務見直しミーティングを行いながらケア向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を遵守し職員の勤務状況や業務内容の把握・評価し給料や賞与へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修を行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所の研修等へ参加し他の事業所との意見交換の場に参加するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時は、情報収集に努め本人や家族との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談を重ね困っていることや要望に等に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向をケアプランに活かし実践に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除・調理などを一緒に行いながら、人生の先輩として培ってきたものを教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来て頂ける環境作りに努め、本人の思い家族の思いを理解、認識し良い関係が築けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの受け入れや地域の活動へ参加できるよう努めている。併設されている通所で馴染みの方と会えるよう支援している。	家族による馴染みの美容室の利用や、長い期間訪問されているボランティア、飾り馬の来訪等馴染みの関係性の継続に努めている。初詣や神社参拝等馴染みの場所の継続や家族の入院先にお見舞いに出かける方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しテーブルの配置や気の合う仲間との時間を大切に出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	治療の為入院し退居した方の面会に行き、家族の不安や心配事にも相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や意向を踏まえたケアプラン作成に努めている。日々の関わりの中で言葉だけではなく表情やしぐさからも本人の意向を引き出せるように心がけている。	常日頃から入居者の思い等が把握できるように、バリアをはり、意思表示が出来る限りは出来る範囲で実現させている。“新聞の書写をしたい、パズルをしたいや漢字検定を受けたい”等興味のある事等を把握し支援している。意思疎通困難には、職員からの声掛けや気づきにより出来ることを見出したケースもあり、残存能力を引き出したケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りはもとより、病院や施設の担当者との連携を図り情報提供を得てる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さないよう観察を行い、職員間での気づきなど出し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ多職種の意見を出し合い、ケアプランにも反映し充実した生活を送れるように努める。	入居者・家族の意向をもとにしたプランは、3ヶ月毎のモニタリングや疾病発生や転倒防止に向けたカンファレンスにより新たにプランを作成する等現状に即した個別的なプランを作成している。家族の〇〇して欲しい等の声には随時朱書きでの追記を行う等家族の思いをプラン作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に情報を記入し、業務日誌や申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、訪問理美容室や買い物に随時対応出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の影響で参加出来ないこともあるが、サロンや地域行事に参加出来る様に、担当者と連携を図り調整している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医に通院出来る様、家族に協力を依頼し適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医について説明を行い、本人・家族の意向を優先している。現在は全入居者が隣接母体病院の定期受診として、歩いて出かける事で外出の一つとしている。他科受診は必要な情報を提供し、家族の支援としている。歯科は訪問診療とし、週1回実施していたバイタルチェックを、インフルエンザ対策などの点から毎回計るように切り替えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置し早期発見に努めている。介護職からの小さな変化でも看護職に報告し入居者の健康に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や他の関係者との情報交換に努め、時々本人の面会を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化や終末期に関して、本人や家族の意向を確認している。また、家族の方へその都度確認を行っている。	入居に際し、重度化した場合のホームの方針（ホームでは終末期ケアは行わない）を説明して同意書を交わしている。重度化等必要な時点で担当医と話し合い、支援内容を盛り込んだプランをもとに家族に説明をしている。ホームでは終末期支援は行われておらず、医療中心の生活になった場合には、家族の意向を確認した上で、病状により病院へとしているが、出来る限りはホームでケアしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職から実技等を交えて研修を行い、職員それぞれが急変時に備えてシミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に多様な状況を想定した、利用者参加の防災訓練を行い、消防署の立ち合い訓練も実施し指導も受けている。	年2回火災訓練を実施することとして、5月には夜間想定のお知らせ訓練を済ませ、更に消防署の立ち合いにより入居者も実際に避難に参加する総合訓練を予定している。自然災害(地震・水害など)の訓練は行っていないが、備蓄は法人で確保され、ホームでは水のみを準備している。前回の台風の際には必要な物品が法人より届けられている。	昨今の自然災害により各地で甚大な被害が出ており、今後は地震や風水害に対する安全対策や机上訓練などを通じ、日頃から意識を持って取り組まれることが期待される。また、地域の消防団との日頃の連携などにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の意向に沿った対応を心がけ、家族的な中でも常に尊重した声かけを心掛けている。	職員は入職時に守秘義務について法人と誓約書を交わし、入居者・家族の個人情報保護について把握している。ユニット間の異動はないが、職員は互いに行き来し、双方の入居者と馴染みの関係を築き、呼称は基本的に苗字で対応している。就寝時は必ず寝間着に着替えられており、入居者への尊厳を重視している。また、寝間着は毎日洗濯され、入居者が自分の出番とばかり、一枚一枚をハンガーに干されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から希望や意向を汲み取り自己決定が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のケアや会話の中で意向や希望等を引き出し計画を立て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、随時訪問理美業者への仲介を行っている。また、洋服選びも一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事や個々の機能に応じた食事の提供をしている。利用者と食事のつぎ分けも行っている。	以前ホームで手作りしていた食事は、昼・夕食を法人調理室に移行し、朝食と毎回の炊飯をホームで対応している。水曜日の手作りおやつや、誕生会メニューなどは入居者の意向を優先してホームで調理している。夏のソーメン流しの他、9月には敬老会に合わせ、家族との交流会として家族との食事のひと時が持たれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事の提供を行っている。体調等に応じてお粥やおにぎりへ変更し対応している。毎食の食事量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけや介助を行っている。訪問歯科からの指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の誘導や声かけを行っている。失敗しても本人からが傷つかないように声かけなど行っている。	自立した方の排泄を後押ししながら、尿意の無い方へも声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。病後にオムツになられた入居者へも布パンツに戻す努力をしている。夜間に使用するポータブルトイレは、日中の洗浄により清潔に管理し、使用しない時間帯には布で覆い、入居者への尊厳に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目に水分補給や運動による自然排便が出来る様に心がけている。排便困難な方へ主治医、看護職へ相談し排便のコントロール等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活リズムに合わせ入居者へ希望を尋ねながら行っている。季節行事で菖蒲湯なども楽しんでもらっている。	ユニット毎に入浴時間を設定はしているが、「昨日入ったけん入らん」など拒否される方には、時間をずらしながら職員の声掛けで入浴に繋いでいる。入浴がない日には清拭で対応し、菖蒲・ヨモギの葉・みかんの皮など自然のもので入浴を支援している。浴室前には入浴表とともに、浴室掃除のチェック表が設けられ、衛生管理に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状態に合わせて休息等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服薬されている薬名は、個人ファイルに綴じ目的や副作用等の把握に努めている。一人ひとりに合わせた形状にし確実に服用を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好を楽しめる時間を作っている。洗濯物たたみや干し・テーブル拭き等の役割を分担して頂き生活への充実感を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日に外出が出来る様に支援している。	普段はホームの庭に出て桜や季節の草花を見たり、畑の野菜の育ち具合を確かめるなど、自然の恩恵を受け暮らしている。ユニット毎に出かけた外食先では代金を入居者に支払ってもらうなど、社会参加の一コマが実現している。馬追い見学(法人に來訪)、花火大会など外出の機会が用意されている。中には定期的買い物や食事などに出かける入居者等家族の協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいが買い物や外出行事の際は、本人が支払出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話をかけたいとの希望時は、その都度対応し取り次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好まれる音楽をかけたり季節の花を飾り、生活感や季節感を感じて頂いている。席の配置も気の合った方で過ごせるように支援している。	玄関先には花や果物(柿・栗)、入居者が掘ったさつまいもなど、秋の恵みが飾られ、季節を楽しむことができる。リビング前のウッドデッキは十分な広さがあり、洗濯干しやお茶の時間に活用されている。ホーム内は衛生管理者を中心に、手入れが行き届き、入居者の中には一緒になってホール内の掃除に精を出される方もおられる。壁面を利用した大作の掲示等手作り感のある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどそれぞれ自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の動線等に気を配り、使い慣れた生活用具で過ごしやすいように家具の配置をしている。	入居者はそれぞれの居室に使い慣れた品を持ち込まれている。家族が作った手作り品や写真、収納しやすいタンスなどが置かれ、安心して過ごせる居室になったている。家族との連絡ノートが置かれた部屋や、観葉植物を並べ、掃除やシーツ交換まで自らされる方等自宅の生活線上にある居室作りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが物のあり場所が分かりやすい様に表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601148		
法人名	医療法人 永田会		
事業所名	グループホームげんきの家 さくら		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町辛川1923-1		
自己評価作成日	令和元年9月26日	評価結果市町村受理日	令和元年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた家で暮らしているような安心感と、家族的な対応を心がけています。狭い空間ながらも利用者様同士で楽しく過ごす時間、個々で楽しむ時間を大事にし継続できるよう、環境作りにも工夫し支援しています。ホームの周りには、花や農園もあり野菜作りや収穫・梅ちぎりなども行っています。同法人が医療機関でもあり、定期受診や緊急時などの対応を行い、密接な連携を図り利用者の健康に務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に提示しいつでも再確認できるようにしている。事例検討を行いスタッフ間の意識の統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の影響で参加出来ないこともあったが、地域の総会や掃除活動に参加するよう行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みの相談や問い合わせに、支援方法や対応を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告を行い、活動内容は写真を添付し伝わりやすくしている。それぞれの立場から意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、ホームの現状を伝えている。質疑応答や雑談の時間を作り協力関係を築けるよう配慮している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についてマニュアル作成し実践している。常に事例検討を行い拘束に繋がらないよう行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日頃のケアの中で虐待に繋がっていないかを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や施設内での勉強会を行い理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書のみならず利用者や家族へ解りやすい説明を心掛けをし、疑問点には随時返答出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の関わりの中で、利用者や家族からの要望や意見を密にしている。運営推進会議でのいけん交換の場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々のケアの中で意見や提案を聞き業務上の問題点の改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を遵守し職員の勤務状況や業務内容の把握・評価し給料や賞与へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修を行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所の研修等へ参加し他の事業所との意見交換の場に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時は、情報収集に努め本人や家族との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談を重ね困っていることや要望に等に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向をケアプランに活かし実践に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除・調理などを一緒に行いながら、人生の先輩として培ってきたものを教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来て頂ける環境作りに努め、本人の思い家族の思いを理解、認識し良い関係が築けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの受け入れや地域の活動へ参加できるよう努めている。併設されている通所で馴染みの方と会えるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しテーブルの配置や気の合う仲間との時間を大切に出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	治療の為入院し退居した方の面会に行き、家族の不安や心配事にも相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や意向を踏まえたケアプラン作成に努めている。日々の関わりの中で言葉だけではなく表情やしぐさからも本人の意向を引き出せるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りはもとより、病院や施設の担当者との連携を図り情報提供を得てる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さないよう観察を行い、職員間での気付きなど出し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ多職種の意見を出し合い、ケアプランにも反映し充実した生活を送れるように努める。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に情報を記入し、業務日誌や申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、訪問理美容室や買い物に随時対応出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の影響で参加出来ないこともあるが、サロンや地域行事に参加出来る様に、担当者と連携を図り調整している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医に通院出来る様、家族に協力を依頼し適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置し早期発見に努めている。介護職からの小さな変化でも看護職に報告し入居者の健康に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や他の関係者との情報交換に努め、時々本人の面会を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化や終末期に関して、本人や家族の意向を確認している。また、家族の方へその都度確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職から実技等を交えて研修を行い、職員それぞれが急変時に備えてシミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に多様な状況を想定した、利用者参加の防災訓練を行い、消防署の立ち合い訓練も実施し指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の意向に沿った対応を心がけ、家族的な中でも常に尊重した声かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から希望や意向を汲み取り自己決定が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のケアや会話の中で意向や希望等を引き出し計画を立て行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、随時訪問理美業者への仲介を行っている。また、洋服選びも一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事や個々の機能に応じた食事の提供をしている。利用者と食事のつぎ分けも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事の提供を行っている。体調等に応じてお粥やおにぎりへ変更し対応している。毎食の食事量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけや介助を行っている。訪問歯科からの指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の誘導や声かけを行っている。失敗しても本人からが傷つかないように声かけなどを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目に水分補給や運動による自然排便が出来る様に心がけている。排便困難な方へ主治医、看護職へ相談し排便のコントロール等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活リズムに合わせて利用者へ希望を尋ねながら行っている。季節行事で菖蒲湯なども楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状態に合わせて休息等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服薬されている薬名は、個人ファイルに綴じ目的や副作用等の把握に努めている。一人ひとりに合わせた形状にし確実に服用を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好を楽しめる時間を作っている。洗濯物たたみや干し・テーブル拭き等の役割を分担して頂き生活への充実感を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日に外出が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいが買い物や外出行事の際は、本人が支払出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話をかけたいとの希望時は、その都度対応し取り次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好まれる音楽をかけたり季節の花を飾り、生活環や季節感を感じて頂いている。席の配置も気の合った方で過ごせるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどそれぞれ自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の動線等に気を配り、使い慣れた生活用品で過ごしやすく家具の配置をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが物のあり場所が分かりやすい様に表示している。		